ぜんこうじみち 安原

松本養護学校と安原地区
そばを「つなぎ」の交流

松本市旭2丁目にある県松本養護学校「しなの木教室」と、地元とのそば打ち交流会が1月15日、安原地区公民館で開かれました。生徒と住民がそばを文字通りの「つなぎ」にして楽しく交歓しました。

地域交流を深めたい、という学校側に公民館が呼応して初めて実現しました。「しなの木教室」の2年生5人が、信州そばの会の斉藤安治さんと、そばによる地域起こしに携わる安達益雄さんの2人の指導で、初のそば打ちを体験しました。

生徒たちは「水回しは水とそばがなじむように」「切るときは同じリズムで」などと講師の2人から手ほどきを受けていました。初めは手こずっていたものの次第にこつをつかんだ様子で、香りと甘みが自慢の地元産そば粉による二八そば25人分をつくりました。

挽きたて、打ちたて、茹でたてのそばは、昼食を兼ねた交流会のテーブルに乗りました。生徒たちは「一つひとつの作業を丁寧にした」「難しかったけれど、おいしくできて良かった」などと話していました。

地元の人たちは「生徒さんたちの心のこもったそばの味は格別」「地域とのふれあいの機会をつくっていただき、ありがたい」と感謝の気持ちを伝えました。学校生活や通学事情についても会話が広がる交流会でした。

専門家の手ほどきを受けてそば打ちに挑む生徒たち（上）と会話が弾んだ交流会（下）

安心安全の1年誓う

安原地区の新年祝賀会が1月14日、地区公民館で開かれ地元11町会の役員など住民約60人が1年の誓いを新たにしました。

まちづくり協議会の保科守宏会長は「地域防災のための避難所運営委員会が立ち上がり、安原十王堂の整備事業も進んだ」と昨年を振り返りました。そのうえで「安心・安全に加えて、快適で楽しいまちづくりに向けて力を合わせて頑張りたい」と述べました。

参加者は記念写真に納まったあと、テーブルを囲んで歓談しました。多くの顔見知りが集う恒例の新春行事とあって、お酒を酌み交わす談笑の輪が会場のあちらこちらに広がりました。

新年祝賀会で歓談する参加者たち

なごやかに新年祝賀会

種から粉まで体験

旭町小2年生きな粉づくり

旭町小学校の2年生70人は1月19日（金）、同校できな粉づくりをしました。地域と学校がふれあうコミュニティースクールの一環で、JA松本ハイランドの小林敦美さんの指導の下、町会関係者や、信州大学の学生がボランティアとして参加しました。

初めに小林さんから作り方の説明を受け、グループごとに作り始めました。

1分30秒ほど電子レンジで加熱した大豆を布製の袋に入れ、木の棒でたたいて粉にします。恐る恐るたたく子や勢いよく力任せにたたき手がしびれてすぐに交代する子など悪戦苦闘。袋を平らにして丁寧にたたく子など、工夫する姿も見られました。慣れてくると、グループの中で順番やたたく回数を決め、みんなで声を合わせてたたきました。

きな粉づくりをする旭町小２年生

教室中に回数を数える声が響きました。大豆は粉になり、「きな粉」のいい香りが漂い始めました。粉をふるいにかけて仕上げました。お餅にきな粉をまぶして試食しました。

担任の常盤明子教諭によると、子どもたちは、春に教室のわきに大豆の種をまき、毎日水やりをして育てたそうです。

実ってきたころ、ハトに食べられそうになったため、みんなで相談してネットを施して防ぎ、最後のまとめとしてきな粉づくりを迎えました。

ボランティアとして参加していた人たちは子どもたちの頑張りに温かな目を注いでいました。

安原地区公民館

信大キャンパス探検隊④

医学部附属病院 ドクターヘリ（下）

今回は前号で紹介できなかったドクターヘリ情報を取り上げます。案内役は引き続き、救急集中治療医学所属の高山浩史助教です。

ドクターヘリの搭乗定員は最大6人。パイロット1名、整備士1名、医師1名、看護師1名を基本としており、それ以外に座席が1つとストレッチャーが1台あります。

新しくドクターヘリの医療要員になるために、数カ月間の訓練を受けます。出動要請を受けた救助者に加え、もう1人の救助者あるいは付き添いの人で定員の6人に達した場合、添乗訓練中のスタッフがヘリから降りなければなりません。現地からの帰路は、空路ではなく陸路、電車などによります。

医療要員が実習でヘリに乗る際は、志願制で家族の同意を得ることが条件です。

出動要請は、県内各地の広域消防署・現地の救急隊から発せられます。県境のポイントにもほぼ30分で飛びます。地理的状況などによっては、ヘリの方が現地の離着陸場所に先に着くことがあります。ポイントに積雪がある場合、赤やオレンジ系の入浴剤を使用して、雪上に目印をつくります。

信大のドクターヘリ、その存在と、日々の運航努力を体感しました。

◇

写真は緊急医療の最前線を担うドクターヘリ

いちょう並木

「ヒイラギナンテンごぞんじですか」

メギ科ヒイラギナンテン属の植物で、南天の類で葉がヒイラギに似ている常緑の低木です。

半日陰を好み、乾燥を嫌う樹木で、原産国は中国。日本には江戸時代の1680年ころに渡ってきました。

冬枯れの庭に春を告げ、房状に咲く黄色の小花、光沢ある葉とのコントラストは風情を感じ捨てがたい趣があります。

南天も同じメギ科の植物ですが、属がナンテンに分類され、ヒイラギナンテン属とは異なります。

肥沃な土地が大好きで、大変丈夫で育てやすく、造園木として各地に植えられております。

実生、挿し木、株分けで増やすことができます。実生は採り蒔きするか、冷暗所に貯蔵、冬を越した3月に蒔くと発芽率が高いです。挿し木は前年枝を3月に、新芽は7月に挿すと良く発芽します。株分けは3～4月におこないます。魔除け木として植えてください。